

実践のまとめ（第3学年 国語科）

指導者 柏崎市立第三中学校
教諭 前澤 明里

1 研究テーマ

**抽象的、比喩的な表現を具体的に読み取り、
自分の考えを広げて目的に応じて表現することができる生徒の育成
～作者を代弁する活動を通して～**

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

平成29年改訂小・中学校学習指導要領「国語」において、指導内容の系統化が図られるとともに、言語活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかが示された。それをもとに、「言語活動」が重視され、指導事項が身に付く国語授業が実践されている。一方、令和6年全国学力・学習状況調査の結果からは、課題の一つに「表現の効果を考え、説明すること」をより一層育む必要があることが示されている。

本校も、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる」問題の通過率が低く、表現の効果を考えたり、それを説明したりする指導の必要性が明らかとなった。また、「短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる」問題の通過率の低さも顕著で、韻文の描写を具体的に想像し、具体的なイメージをもとに解釈する力の育成も急務であることも分かった。

韻文は、詩、短歌、俳句など、様々な形があるが、どの形でも、作者の伝えたいことが吟味された言葉として、抽象的、比喩的に表現される。作者の考え方が凝縮された抽象的、比喩的な表現を具体的に解釈する力は、散文のみならず、すべての読みもののおもしろさ、奥深さを味わう力となる。一方、その営み自体、得意な生徒と得意でない生徒の差が激しいことも痛感している。どの生徒も、読み物のおもしろさ、奥深さを味わえることを達成することは、筆者にとっての大きな課題である。

そこで、本研究では、散文において①意図のある抽象的、比喩的な表現を具体的に想像して作者の考えを読み取り、②表現の効果を考えて創作する学習過程を工夫する。特に、詩の表現をどの生徒も具体的に想像しやすくするために、作者になりきる活動を仕組む。解釈することが得意な生徒も、得意ではない生徒も、作者の言いたいことに迫る楽しさを感じながら、読み取りの力と表現の力を高められると考え、本研究テーマを設定する。

(2) 研究テーマに迫るために

次の2点を意識して学習活動をデザインする。

① 意図のある抽象的な表現を具体的に想像して作者の考えを読み取る学習過程の工夫

- ・詩の表現を「対比」という視点で整理させることで、構造における作者の意図に気が付けさせる。
- ・作者になりきって話す活動を取り入れ、意図のある抽象的な言葉を具体的に想像することを促す。

② 自分の考えを伝えるための表現活動の工夫

- ・「作者に現在の様子を詩で伝えよう」という目的を設定し、自分の考えを託した詩を作る場を設ける。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① 抽象的な言葉を具体的に想像し説明することができるかを、作者を代弁する活動により評価する。
- ② 「作者に現在の様子を詩で伝えよう」という目的に応じて、現在について自分の意見を伝える詩を創作することができたか、作品によって評価する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

状況の中で「挨拶—原爆の写真によせて」（国語3 光村図書）

(2) 単元の目標

- ① 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能】(1)イ
- ② 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。【思考力、判断力、表現力等】C(1)エ
- ③ 言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)	①「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)	① 詩の表現をもとに現在の社会の状況を具体的に考え、進んで自分の考えを深めようとしている。

(4) 単元と生徒

三年生では、この時期までに「世界はうつくしいと」「俳句」の韻文を扱ってきた。これらの単元では、詩の構造や表現技法などの表現の仕方を通して、作者のものの見方や感じ方を捉え、味わう経験を踏んできた。また、物語教材ではあるが、直前に学習した「故郷」では、作品に込められた作者のメッセージの読み取りから、読み物に内在する読み手や社会に訴える力を感じ取っている。

構成や表現技法を読み取りのきっかけとし、作品の主題に迫る学習を踏んできた一方で、主題として投げかけられる社会に対する作者の考え方に対して、自分の知識や具体的な事例をもとに自分の考えをもつところまでは扱えていない。また、作者が抽象的、比喩的に伝えている表現を、具体的なものごとに置き換えて考えることがとりわけ苦手な生徒

がいることも事実である。抽象的、比喩的表現にこそ作品のおもしろさ、奥深さが表現されていることは少なくない。だからこそ、本単元では、抽象的、比喩的な表現を具体的に説明する力を伸ばしたいと考える。

「挨拶一原爆の写真によせて」は、「顔」というモチーフが「1945年」と「いま」の対比構造で描かれており、生徒は「対比」という視点をもって詩を読むことができる。また、「生と死のきわどい淵」「何か近づいて」「見きわめなければならないもの」などの抽象的、比喩的な表現には作者の鋭い見方が表現されているため、それらの表現を具体的な事柄に置き換えて考えることで、生徒は作者の考え方を受け取ることができる。

「挨拶一原爆の写真によせて」は、作者の表現と向き合い、現在の状況をより具体的に、より深く想像することで、現代社会の脆さに触れる奥深さのある作品である。

(5) ■単元の指導と評価の計画（全3時間、本時2／3時間）

	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
一次 (1)	○構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「一原爆の写真に寄せて」の意味を知る。 ・範読を聞く。（印象とそれを感じる部分はどこか。→作者は詩を通して、何を伝えているのだろうか。問題提起する。） ・時間の対比「1945年」「いま」、顔の対比「焼けただれ」「すこやか」「すがすがしい」を捉え、共通部分に「やすらか」「美し」「油断」があることを押さえる。（「やすらか」「美し」「油断」は、「1945年」と「いま」のどちらに入るのか？） ・共通した部分からは、何が伝わるのかを説明する。（「1945年」と「いま」に共通した「安らかさ」「美しさ」があるとしたら、何が伝わりますか？） 	[知識・技能]①／ワークシート 戦時中も現在も、変わらぬ穏やかな朝の時間が流れていたことが分かる。
二次 (1)	○表現にある、作者の意図をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な表現を通し、作者は何を指し示しているのか具体的に説明する。（作者になり切って説明しよう。また、作者になりきって答えよう。） ・作者の言いたいことをまとめる。 【本時】 	[思考・判断・表現]①／話し合い活動・ワークシート 詩中の比喩表現を、具体的に説明することができる。
三次 (1)	○目的に応じて自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「もし、自分が現代の状況を作者に伝えるとしたら、どのような詩を作って伝えるか。」を課題とし、平和についての詩を「顔」をモチーフにして創る。 	[思考・判断・表現]①／ワークシート「顔」をモチーフにし、現代社会の平和について詩を創ることができる。

4 本時の展開

(1) ねらい

比喩表現・抽象表現を具体的な事柄に置き換え、作者の考え方を読み取る。

(2) 展開の構想

前時で、「1945年（戦中）」「いま（戦後）」の時間の対比に基づいて顔を区別する対話活動を行った。対比された意図を考えたことで、構造に現れた作者の意図に気づくことができたと考える。

本時では、作者が抽象的、比喩的に表現している言葉を、具体的な物事に置き換えて解釈する課題を設定する。抽象的で比喩的な表現は、生徒にとって想像しにくく、うまくとらえることができないだろう。そこで、「作者になりきって答えるとしたら、どう答えるだろうか？どのようなことを示しているのだろうか？」と投げかけ、作者になりきって答える活動を仕組む。生徒は、作者になりきることで、詩の表現にじっくり向き合い、想像し、説明しようとするだろう。特に、詩中の「生と死のきわどい淵」「見きわめなければならないもの」「えり分けなければならないもの」などの比喩表現・抽象表現が示す事柄を自分なりに明らかにしながら答えを出していくことを期待する。

なりきる活動を通して、作者の考え方を具体的に想像することを促し、現代社会の状況を踏まえて自分の考えをもつ活動へとつなげていく。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	○教師の働きかけ ●予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 (5)	・ 作者の考えを代弁することで、作者の物の見方や考え方を詳しく考える活動に取り組むことを知る。	○前時は、対比の構図から作者の意図を考えたことを振り返る。 ●「1945年」の朝も、「いま」の朝も、変わらぬ穏やかな朝の時間があったんだな。 ○本時は、作者が何を伝えようとしているのかを具体的に捉えることを目的にすることを伝える。 ●抽象的な表現が多くて、いまいちよくわからなんだよな。具体的に何を言いたいのかみんなにも聞いてみたいな。	◇詩を読むことは、作者と対話する営みであることを伝える。
【課題】 作者は、何を伝えようとしているのか？抽象的な表現を、具体的にして伝えよう。			
展開 (35)	・ 自分ならどう説明するかを考える。 ・ 作者になり切り、説明したり、質問に答えたりする。	○自分なら、どの抽象的な表現を具体的に説明するかを考えさせる。 ●作者の抽象的表現をあげながら、具体的に何が言いたいのかを想像する。(5分) ○作者の説明を聞き、追加で質問をする。 (4分×3人) ●「地球が原爆を数百個所有して」って、どういうこと？なぜ『地球』なの？」「何か近づいてきてはいないか」の『何か』って	○ピラミッドチャートで整理させる。 ○3人班で、作者役1人、質問者2人(そのうち1人が書記)の役割を3ターン回す。 □詩の表現をもとに現在の社会の状況を具体的に考

		何？」 ○それぞれの回毎に、代表生徒に発表させる。（2分×4回）	え、進んで自分の考えを深めようとしている。 ◇生徒が答えた内容（＝筆者の考え）を板書する。
終末 (10)	・作者の考えをまとめる。	○作者の言いたいことを、現代の具体的なことがらを挙げて書かせる。 ●今、地球上には原爆が数百個あり、いつ使われてもおかしくない状況がある。それを忘れている人間に危機感を持つと言っているのだ。 ●原爆を作ったり、使用したりする政権を選んでしまうのは、選挙権のある自分たちだ。自分たちの手の中に、将来をきめる鍵が握られていることを忘れてはいけない。政治に無関心ではいけない。しっかり考えろよ、と言っているのだ。	○自分のまとめをオクリンクで示し、共有しやすくする。 □人間、社会、自然などについての作者の考え方を、具体的な事柄をもとに説明している。

(4) 評価規準

人間、社会、自然などについての作者の考え方を、具体的な事柄をもとに説明できる。

5 成果と課題

(1) 詩を具体的に想像し、作者の思いを読み取ろうとする態度の醸成

これまでの筆者の実践を振り返ると、韻文において、そこに使われている表現技法や構成、抽象表現などを確認し、作品のテーマに迫る授業が中心であった。その授業スタイルの中で、表現技法と作者の意図が繋がらない生徒、構成や抽象表現などから作者が具体的にとらえているものを具体的にイメージできない生徒は少なくなかったように思う。しかし、今回「作者になりきって答えるとしたら、どう答えるだろうか？どのようなことを示しているのだろうか？」と、作者になり切って考え答える活動を仕組んだことにより、詩の表現にじっくり向き合い、作者の意図を想像し、つなげて考えようとする生徒の姿があった。散文中の表現を解釈することが得意でない生徒も、なり切る活動を通して読み物に内在する作者の思いを受け取り、自分の考えを広げようとする態度が醸成されたように感じる。

【抽象表現・比喩表現に注目した質問と答え】

【グループで出された質問】	なり切った生徒の答え
「生と死のきわどい淵」とは、どういうことですか？	人はいつも危機の中にいるということです。
「明日の表情」とは何ですか？	明日の表情は、明日も生きる穏やかな顔です。でも、未来はわからないから、互いに穏やかな顔とは限らないことを表しています。

<p>「えり分けなければならないものは／手の中にある」とあるが、なぜ「手の中」にあるんですか？</p>	<p>自分の手の中であって、それぞれが選び取っていかねばいけないことを言っています。世界、国、自分自身のこと、どれも重要な選択は自分でしていくことが大切で、誤ってはいけないことを強く言っています。</p>
---	--

想定外だったのは、表記について疑問をもって質問し、その意図を答える対話があったことだ。一つの言葉の表記について深く考えていく姿勢が、結果として作者のメッセージに迫っていた。先に構造から作者の意図を捉えるステップがあったことが、詩の表現全体が作者の意図の表れであることの共有となり、表現の細部にこだわる質問につながったのだと考える。

【表記に注目した質問と答え】

【グループで出された質問】	なり切った生徒の答え
「すでに此の世にないもの」とは、なんですか？	25万人の焼けただれた人たちです。
なんで「此の世」としたのですか？	漢字の方がカッコいいからです。
なんで「もの」としたのですか？	「もの」から「者」と「物」を連想させるためです。「物」には、物を捨てるかのように死なされていった人々を表しました。

(2) 自分の考えを表現する態度の醸成

自分の思いを表現することを得意とする生徒がいる一方、表現することが苦手な生徒もいる。以下に【A：表現が得意な生徒】【B：ある程度は表現できる生徒】【C：表現が苦手な生徒】の3名の創作を示す。※全てミライシードに提出されたデータのまま掲載。

「挨拶」によせて

静かに耳を澄ませ、
何かが近づいてこないか
そう、彼女は言った。
私たちは耳をすませば何が聞こえる？
紙に何かを書く音、車が走る音
相談する声、笑う声。
私たちは戦争の音なんか知らない
じゃあ、今の違う国は？
私たちと同じ国もあるけれど
耳をすませと
空襲警報のサイレン音、人の叫ぶ声
鳴き渡る音、銃の発砲する音
彼らは戦争の音を知っている
なぜ？同じ時代に生きている人間なのに？
笑い合う顔はただ何も知らないだけ。
苦しみ辛い顔は知らなくていいことを知っ
てしまったから。
みんな同じ時代に生きている人間
何も知らなくていい顔は、いつになったら
できるんだらう。

【A：表現が得意な生徒】

「挨拶」によせて

一九四五年の朝一瞬にして死んだ二五万のすべ
て今在るあなたの如く私の如く安らかに美しい
そう、彼女は言った。
あれからどれだけ経ったのだろ
う
今日も午前八時一五分はやってく
る
平和な今日
あなたの顔はいつも
笑っている顔
今日も世界のどこかで戦争をやっ
ている
今日も平和な日本が守られている
あなたの顔私の顔を
笑っている顔を
今日も守っていききたい
今の生活を楽しく笑顔な平和の
生活

【B：ある程度は表現できる生徒】

「挨拶」によせて

あなたの如く、私の如く、やすらかに
美しく、油断していた
そう、彼女は言った
地球は今も尚原爆を所持している
そのなかで私達は暮らしている
昔と同じように
幸せと思える今日も
すぐに失う状況下にある
午前八時十五分を迎える時
君はなにを思うのか

【C：表現が苦手な生徒】

詩を通し訴えかけられる作者の意図をきっかけに、生徒は現代社会の状況について思いを巡らせた。今、世界はどうなっているのか。今、現実はどういう状況と言えるのか。「その現代の状況を作者に伝えるとしたら、どのような詩を作って伝えるか。」を課題とし、平和についての詩を「顔」をモチーフにして創った。

これまでの実践では、「創作しよう」としてもなかなか書き出せない生徒がいた。そこで、創作する際に、筆者の詩の一部を引用することとしたことで、筆者に返事をするこ

的が明確になり、書き出しやすい様子が見られた。また、引用する際にも、なりきる活動を通して、作者の考え方を具体的に想像したことが、どの部分を引用するかを決める力につながったようだった。

(3) 課題

どの単元においても、単元を貫く言語活動を効果的に提示することに難しさを感じている。今回、単元の最後に詩の表現活動を計画したが、その活動が生徒にとって必要性を感じる活動とは言い難かった。生徒にとって必要性を感じる活動をいかに仕組むかが今後の課題である。

参考文献

- ・ 国立教育政策研究所「令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料」
- ・ 佐藤佐敏「言葉による見方・考え方を働かせる授業づくり」研修資料 柏崎市教育委員会